

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100427		
法人名	社会福祉法人慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム可児		
所在地	岐阜県可児市菅刈1389番地1		
自己評価作成日	令和4年8月24日	評価結果市町村受理日	令和4年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2173100427-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

第一に「地域に開かれた施設」を目指しています。その活動の一つ、地元帷子小学校五年生児童を中心とした世代間交流を行い交流を深め、また定期的な「音楽療法」を通じ、日常的に音楽が近くにある生活を目指しています。家族様の面会や外出に制限は作らず、気軽に来所していただける雰囲気、家族への声掛けに努め、日常的にふれあう機会により、ともにご本人を支えていける支援を行っています。しかしながら、コロナ禍により、制限のある生活を余儀なくされています。そのため、季節に合わせた昼食メニューや、お楽しみメニューなどを企画し、食を通じて楽しみのある生活ができるようご支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、デイサービスセンターと介護相談センターとの併設型であり、地域での福祉相談の窓口的役割も担っている。学校や住民を対象の講演など、世代間交流を行いながら、地域に開かれた施設を目指し福祉社会の実現にむけて取り組んでいる。事業所は、大きな住宅街の一角にあり、小学校や複数の公園もある中で地域住民のひとりとして生活することができる。職員は、利用者が家庭的なぬくもりの中で共に笑い合い、「ここが一番」と言ってもらえるよう、日々、支援に努めている。管理者は、職員の資格取得を奨励しながら、意見や提案等を運営に反映させ、職員のモチベーションを高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人基本方針を基礎として当たり前地域と共に安心して暮らせるよう理念を掲げています。又ホーム内に基本方針を掲示し、職員会議、朝、の申し送り時確認しています。また、新しい職員には資料も配布し周知しています。	法人理念・事業所理念は目に付きやすいよう、タイムレコーダー前に掲示し、職員は日々確認している。コロナ禍の現在は、小人数でミーティングを行い、各ユニットで内容を周知、共有しながら実践している。新人職員は研修時に理念についての意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通して自治会長、民生委員、ご家族代表者等に、地域の行事に参加できるよう配慮いただいています。(地域のお祭り、小・中学校の運動会、図書館、等)地域ケア会議にも積極的に参加し意見交換しています。(コロナ禍により現在見合わせています)	現在、地域の清掃活動も中止であり、住民との交流も自粛している。感染予防対策をした上で、職員が利用者と共に事業所周辺の掃除をしている。対面での交流は難しいが、小学生との手紙の交換は継続している。利用者はコロナ禍以前の地域行事や交流を思い出しながら、収束する日を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉施設の機能を地域に還元できるよう、グループホーム管理者及び、エリア内の各種職員が「出張講座」等の企画にも協力できる体制が整っており認知症に限らず介護に対する相談や施設での実習や見学等も行っている。(コロナ禍により現在見合わせています)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの様々な近況を報告し、会議の中で意見を求めてきました。また、できる限り、情報を公開(重要説明事項・契約書・運営規定・事故報告書・ヒヤリハットに関する統計、内容説明)ボランティアの依頼等こちらからも情報収集に心がけています。地域の活動も教えて頂きケア会議に参加しています。(コロナ禍により現在見合わせています)	運営推進会議は、行政、家族代表、自治会長、事業所関係者が参加し隔月開催としていたが、感染拡大予防対策として、現在は書面開催としている。取り組み状況や利用者の様子を写真入りでまとめた運営推進会議資料を関係者に送付、または手渡し、電話にて意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の入退所の連絡はもちろん入院や報告すべき事故が発生した場合は、連絡を取っています。困った時には相談させて頂いています。	今回、管理者の異動もあり、行政に出向いて事業所の現状について報告しながら指導や助言を求めている。コロナ禍で行政主催の会議は中止となっているが、常に最新情報を得ながら、利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員間で玄関の施錠等も含め、気がつかないうちに拘束が行われていないかなど状況に敏感であるよう努めています。玄関は開錠し職員と散歩に出掛けることで精神安定にも努めています。身体だけでなく言葉のスピーチロックにも注意を払うよう心がけています。	法人としての身体拘束廃止マニュアルがあり、「身体拘束廃止検討委員会」は、エリア毎に定期に開催している。現在、拘束が必要な利用者はおらず、会議後は内容を全職員に報告している。職員は、身体拘束、虐待、スピーチロックについての研修を重ね、正しく理解し、利用者が安心・安全に日々を過ごせるよう支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の新人・中堅研修、可児エリア内での研修会で、虐待防止についての研修を行い、職員に周知しています。特に馴れ合いにならないよう、言葉使い、介助方法等に気をつけています。		

岐阜県 さわやかグループホーム可児

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は認知症管理者研修や、岐阜県主催の認知症講座・介護支援専門員研修・他10名の職員が、認知症実践者研修を受けています。他方、現在地域権利擁護・成年後見制度を必要とされている対象のご利用者はみえません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「契約書」「重要事項説明書」の取り交わしについては、事前面接時にも、十分な説明の時間を設け、更に、入所時にも十分に時間をとるなどご理解、ご納得をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診時や来訪時の会話からご意見やご要望を拾い管理者、職員はユニット会議等にて改善策を考慮しています。法人内の独自アンケート調査を実施し、改善策を提示し実行しています。運営推進会議等においても要望を聞いてご意見を反映しています。	家族には、毎月、季節の行事や誕生会、利用者の日常生活や食事内容の写真等を掲載した「GH可児ふぉと便り」を送付している。面会は、ガラス越しで行っている。かかりつけ医への受診は、家族が同行しており、訪問の際には家族の意見や希望を聞く機会としている。また、法人のアンケート調査でも、家族の希望を聞き、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	担当職員から利用者様個々に対する意見を聞き、問題解決に向けて毎月1回職員会議、各ユニット会議、担当者会議等にて意見提案を検討し運営に活かしています。	管理者も職員と共に現場に入っており、日常的に職員の意見や要望を聞き、速やかに解決できる課題と組織的課題などを分類して改善につなげている。職員が働きやすい職場環境作りや就業環境の整備等、改善に取り組み、ノー残業デイを設けるなど、職員のモチベーションアップにつなげている。	管理者は、利用者支援や業務内容について常に職員とコミュニケーションを図っている。質の高い利用者サービスの提供、働きやすい職場環境作りなど、具体的目標を立てている。今後も継続して、目標達成に向けて取り組まれることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリア長、管理者は、職員の個人目標を把握し、常に職員の努力、実績、勤務状況にも目を向け、向上心、勤労を奨励しています。サービス残業がないよう5分から時間外対応、就業時間で終われるよう業務改善を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、新人・中堅・中堅フォローアップ・リーダー研修等の習得段階に応じてコースを設定している。外部研修、法人研修の取り組みには、勤務表の調整を行い、参加を可能にするように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人にはグループホームが7か所あり、2か月に1回のサービス向上委員会・臨時的向上委員会を開催し、サービス提供等の情報交換や学習会を行っています。(リモート含む)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に際しては、担当ケアマネジャーからの情報を基本に、直接ご本人、ご家族から心身状況は基より、生活歴・時代背景・家族構成・趣味・性格等、可能な限りの情報を収集しアセスメント実施している。サービス開始後も日々の生活の中から要望や新しい情報を直接聞き取るよう心がけ信頼関係に繋げる支援に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人からいただいた情報の実態確認やご家族様にしか分からない「サービス利用にいたる経緯」を、ご利用者の性格、家族歴、生活歴、環境、病歴、主治医、認知症の状況等を丁寧に伺いアセスメントに反映し、サービス開始後も、面接時や近況報告等にて情報収集の機会を持ち信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に利用者様、家族様の立場に立ち、近況の把握と傾聴等より、「その時」のニーズを見極め、何が一番必要か、利用者様、家族様に方向性が見出せるようご助言しています。選択に当たっては、それぞれのメリット・デメリットの提示を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の生活歴や心身の現状を観察し、ともに食事の手伝い、掃除、洗濯干しや取り入れ等を行ったり、買い物、ゴミだし、草取りなど、暮らしの中での役割を持っていただき、ご自身のやりがいの発見を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス開始が利用者様と家族様の関係が希薄なものにすることがない様、家族様の面会はもちろん、利用者様の外出・外泊に制限は作らず、緊急時以外の受診対応の調整や、家族会や行事への参加の案内、衣替えなど、「近況報告」を利用するなど、日常的にふれあう機会により、ともにご本人を支えていける支援を心がけています。キーパーソン以外の家族が遠方に居る方などは、電話や手紙の交流等で支えて頂いています。(コロナ禍にて外泊等一部制限しています)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊への規制は極力しないことを基本に訪問を奨励している。また買い物等、日常的な外出や、地域のご利用者の多い併設のデイサービスやショートステイ等への訪問、地域のサロンに向き、知人、友人との交流に心がけています。(コロナ禍にて外出等見合わせています)	併設施設との交流で、新たな馴染みの関係が生まれていたが、コロナ禍で中止している。毎月の理美容師の受け入れは継続して行っており、馴染みの関係ができています。入居前の話を聞くことで、利用者同士の共通の話題につながることもある。利用者が孤独にならないよう、ガラス越しの面会を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の中には家に帰りたい気持ちで心が揺れている利用者様に対して優しい言葉かけが合ったり、体調不良の利用者様への心づかいがあったり、支えあいの光景がよくみられています。利用者様同士の相性が合わない時もありますので、必要に応じて職員が仲立ちして大きなトラブルにならない様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期化し退所に至るケースの割合が多いが、病院のソーシャルワーカーとの連絡調整はもちろん、退居先でも円滑に支援が受けられるように助言や支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろより、利用者様個々の嗜好や行事の企画、また趣味の希望等を伺い、できる範囲での実現を目指している。同時に、ご家族の意向を「近況報告」や電話、ケアカンファレンスの際聞き取り、ご希望等、ご本人に合わせて対応しています。	職員は、テレビの内容を話題に利用者の思いを聞いてみたり、家族に趣味や嗜好を聞き、できる限り本人の希望に添える支援となるよう努めている。また、個別ケア時には、普段とは違う話題を投げかけてみるなど、思いや意向を引き出せるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話を中心に、ご家族・知人の方々、ケアマネジャー、サービス事業所から、情報を収集し把握に努めているが、中には様々な理由で把握が難しいケースもあり、ケースバイケースでできる限りの取り組みをしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の観察より、普段との違いへの気付きに努めることを基本とする。また加齢に伴う体調変化のリスクに留意。必要に応じたバイタルチェック、食事や排泄状況を記録に残し、食事や排泄状況を記録に残し、朝夕の申し送りにて状況の把握と対応の統一確認をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、家族様の参加を基本としたカンファレンスを開催し本人や家族の意向・意見、情報交換を実施しています。また、必要に応じて併設事業所の栄養士、社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員の意見収集も実施し介護計画立案に反映しています。	介護計画作成会議には、利用者と家族が参加をしていたが、現在は、コロナ禍で難しい状況である。現在の計画について、関係者で意見交換し、利用者の状況に合わせて見直しを行いながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケアプランに沿った経過記録を残し、モニタリング、評価表を通して実践結果を評価し、次のケアプランに活かす努力をしています。また、体調変化はパソコンの利用者記録一覧に記録を残し、職員間の情報の共有、必要に応じ、ご家族に電話にて状態をお伝えし理解を促しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅総合老人福祉施設の機能を生かし、ハード面の共有はもちろん、日中デイサービスのレク参加・短期入所の夜間対応・介護支援専門員からの福祉用具選定指導等、また関連医療法人(急性期総合病院、精神科病院)との連携を適宜調整しています。		

岐阜県 さわやかグループホーム可児

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	演芸等、各種ボランティアを積極的に受け入れている。また、消防署指導の救急・防災訓練等年2回実施、万一の協力体制構築のため駐在所との地域交流に努めています。利用者と図書館に行き、紙芝居や本を借りています。(コロナ禍により現在見合わせています)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご本人や家族様の希望を基本とし、家族様による受診をお願いし、バイタル表や心身の状態を手紙にて報告しています。緊急時や、家族様での受診が困難な場合は、ご本人の常態把握やホームでの対応方法を指導いただくため、看護師、相談員が同行し主治医との連携を図っています。	入居時に、かかりつけ医についての指針を説明し、利用者・家族は入居前の主治医を継続している。受診の際は家族が同行し、事業所から主治医にバイタル表及び利用者の情報を文書で報告している。訪問医を選択する家族もあり、受け入れを行っている。緊急時は職員が看護師・協力医と連携し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師の日常の状態観察を基本に、夜間等緊急時の対応も併設事業所看護師との連携を図り、迅速な対応を心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の地域連携室のソーシャルワーカー、看護師長との連携を取り入退院をスムーズに行う他、面会に行き、近況を把握しています。(コロナ禍により現在は電話連絡をしています)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	加齢や病態悪化時により医療依存度が增大する場合、家族様、主治医との連絡を図り、エリア長、生活相談員を交えカンファレンスを開催、利用者様家族様の意思確認を図り、利用者様・家族様のご希望を優先できる対応を心がけています。	契約時に、利用者と家族に重度化や終末期の対応について説明し、同意を得ている。状態変化があった場合は、早い段階で関係者が話し合い、適切な助言と提案を家族に伝えている。事業所ですることを説明し、家族の希望に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署主催の救急救命講習に参加し、AEDの講習も受けています。ご利用者の急変、事故発生時の救急対応はマニュアル化してあります。(コロナ禍により現在見合わせています)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時に際し、火災では設備のスプリンクラー等の設備に依存せず、月1回の避難訓練を行い、有事の際には避難がスムーズに出来るよう努めています。ゲリラ豪雨災害も踏まえ、気象情報を注視し避難等が必要な場合の判断としています。	マニュアルに沿って、定期的に防災訓練を行い、連絡網の確認、避難誘導などを行っている。法人内で地震・水害についての対策も話し合い、設備に依存することなく、近隣住民から緊急時の対策や過去の経験を学び、それを活かせるよう、避難方法の再確認、備蓄の点検、整備を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人「個人情報管理規定」に沿って丁寧に説明し、家族様より同意書に署名を頂いています。利用者様個人の価値観や大切にしている事を把握し、その人に合ったケアを心掛けている。また、介護援助の際は、プライバシー保護に留意し、排泄介助や入浴介助をしています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉や支援方法で不快感を与えることのないよう、常に思いに寄り添った対応に努めている。排泄や入浴支援の際には、自尊心を傷つけることのない声かけと介助を心がけている。法人全体の研修も定期的開催されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の傾聴から、利用者様の希望や思いを優先し、その残存機能を発揮できるよう、個々に合わせた活動を心掛け、希望に沿った日常生活の実現のための支援を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調等その時の心身状態に合わせた食事や入浴・排泄・趣味活動を支援しています。寝る時間も利用者様に合わせ、テレビを見たり、おしゃべりして1日の終わりをゆったり過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容に関してはご本人、家族様の希望に沿って実施しています。また、毎月1~2回の訪問理容があり理容師が直接希望を確認し、ご本人の希望を伺ってカットしています。普段の整容には職員が声掛けに配慮し、要望を伺った上で支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好を考慮し献立に反映させ、下ごしらえ、配膳、盛り付け、片付けなどできる限り一緒に行っています。季節の食材や誕生日のお祝い食等を取り入れ楽しんでいただけるよう支援しています。誕生日の月には、食べたい物を伺い提供しています。	食事は利用者の楽しみでもあり、家族も事業所の手作り料理を高評価している。利用者も出来る人が出来ることを手伝い、旬の食材を使ったイベント食も工夫している。個々の好みを聞いたり、状態に合わせた適切な形態や調理方法で提供し、便りに誕生日のお祝いメニューの写真を掲載している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加の防止、カロリー制限、水分制限の指示など個々の食事摂取量を把握し、状態に応じて対応しています。主治医、看護師、管理栄養士に相談し、職員に周知し個別に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の心身能力に合わせた口腔ケアの援助をしています。また週2回を基本に、必要に応じた頻度で義歯洗浄剤にて清潔を保つように努めています。家族様の希望があれば、歯科訪問診療、口腔ケアの利用も受入れています。		

岐阜県 さわやかグループホーム可児

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り現状維持に努め、排泄チェック表に記入することで排泄パターンをつかみ、パターンに合わせたトイレ誘導に努めています。個別の排泄方法に関して職員会議にて話し合い、排泄方法変更の場合は家族様に連絡・相談し、了解を得ています。夜間のみポータブルトイレを使用される方もあり、状況に応じて対応しています。	個々の排泄パターンを把握し、声掛けと誘導でトイレでの排泄が習慣になるよう支援している。布パンツの利用者もあり、継続できるよう支援し自信に繋げている。利用者の状態を見ながら、排泄用品が適切であるかを職員間で話し合い、組み合わせ等を工夫している。夜間は安全面に配慮しポータブル利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排尿・排便をチェック表にて確認し、便秘の訴えのある方や、排便コントロールの困難な方は家族様、主治医に相談し指示を受け下剤対応しています。またヨーグルトや食物繊維の多い野菜等の摂取、水分摂取、ラジオ体操、散歩等で身体を動かして予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様には1日おきの入浴を基本とし、ご本人の心身状況に合わせた見守りと必要に応じた介助を心がけ、ゆっくりと入浴していただいています。便失禁時はシャワー浴にて対応し、衛生面にも気をつけています。	一日置きを基本に、利用者の状態を確認しながら支援を行なっている。職員は、コミュニケーションを図りながら、見守りと介助で利用者が安心安全に入浴できるよう努めている。常に健康状態を確認し、季節の湯を楽しめる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はもちろん居室の明るさ、室温調整等、それぞれご本人の好みに添えるよう、配慮し安眠を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の処方箋は各利用者様用ケースに保管して管理しています。処方箋が変わった場合は申し送りノートに記載し、情報の共有に努めています。服薬は職員が薬ラベル、チェック表の2重確認し、飲み込みまで確認しています。個人ケースに最新の薬情があり、薬の用法やその効果・副作用を職員間で周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴等の観察から、趣味や得意な事を生かせる場面を創るなど、生きがいや達成感を感じていただき、また、誕生会や季節の行事、踊り、園芸、カラオケ、レクリエーション等を提供し活気ある生活が送れるよう支援しています。(一部コロナ禍で制限あります)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節に配慮しながら、ほぼ毎日散歩や買い物に出掛けています。最低でも月1回の外出や、ご本人の希望に応じたドライブや喫茶外出等に出掛けています。イチゴ狩り、花見ドライブ、紅葉ドライブ、初詣など(コロナ禍により現在見合わせています)	コロナ禍にあるため、毎年、実施していた様々な外出は控えているが、感染対策をした上で、近隣への散歩は行っている。また、かかりつけ医への受診の際には、利用者は家族と共に出かけられるので、気分転換にもなっている。	

岐阜県 さわやかグループホーム可児

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を自己管理されているご利用者もおられ、家族様に面会時確認していただいておりますが、保管場所の忘れ等、トラブルのある方もあり、家族様が管理されており、受診時など、家族様との外出時に買い物等をしています。(コロナ禍により一部制限しています)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話希望があれば、その都度対応しています。また家族様からの電話にいただき、お話していただきます。要望や促しにより、年賀状や手紙の投函の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、陽光が多く入るよう心掛け、季節の壁飾りやテーブルの上、ベランダには季節の花などを置き、観賞できるようにしています。また、共用のトイレ、お風呂は常に清潔を保持し、気持ちよく使用できるようにしています。また、お風呂には入浴剤、菖蒲湯、ゆず湯などを入れ季節感を演出しています。	中庭には季節の花が咲き、室内から眺めることもできる。リビングは広く、清潔で風通しも良く、季節の花を飾ったり、利用者が作り上げた多くの作品を掲示している。感染対策のため、テーブル間を空けるなどの工夫もしている。和風の玄関は自宅のようであり、広い廊下は補助具が必要になっても、安心安全に移動ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで他の利用者様と過ごされたり、ソファでおしゃべりしたり、廊下に掲示してある写真を見て井戸端会議、自室でテレビ・読書等されたりと、自由に過ごしていただき、職員が間に入りコミュニケーションも行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族様の希望される物、また馴染みの家具などできる限りご意向に即して対応しています。危険を伴う物以外は原則制限していません。小さな仏壇や盆栽など持参されている方もみえます。	居室の入口には、自分の部屋が分かりやすいよう、名前とともに絵が表示されており、室内には押し入れと洗面台が設置されている。家族の写真や手作り作品等、好きな物を飾って、落ち着いて寛げるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっています。トイレは車椅子用と普通トイレを設置、浴室は手摺・入浴補助具を揃え、安全かつ出来る限り自立した生活ができるよう努めています。		